

# 文化協会を支える人々

ニューヨーク天理文化協会副主任  
福井 陽一 Yoichi Fukui

文化協会では、現地の人々や諸団体と協力しながら様々なイベントが開催されている。最近の動きを紹介しながら、文化協会を支えてくれている人々も紹介したい。

## オーストラリア災害復興支援

1月19日、オーストラリアの森林火災の復興支援のためのチャリティー・コンサート <Strads for Fire> が文化協会で開催された。ニューヨークで活躍する優秀な若手演奏家たちが中心となり、バイオリン専門店 Florian Leonhard 社から、希少価値があると言われるストラディバリウス弦楽器の無償貸与を受け、在ニューヨークオーストラリア領事館などの協力を得て実現した。このイベントは、文化協会で行っていたバイオリン奏者 Nune Melik さんの発案から始まったが、彼女は violin.com 社によって「2017年のベストCD」にも選ばれている人気のある演奏家だ。ニューヨークには、世界中の優秀な音楽家が多く住んでいるが、演奏に適した会場がなかなか見つかりにくい。文化協会がそのような場所を提供できることは、ありがたいことでもある。このように、演奏家をはじめ現地の方々にも喜んでもらえる貴重な場所になっているのである。

## If Music Be the Food コンサート



写真1 「If Music Be the Food」コンサート

「If Music Be the Food」と題したコンサートシリーズが2年前から文化協会で開催されている。これは、ニューヨーク市で食べ物に困っている人への援助意識を高めることを目的としたものだ。入場チケットの代わりに、食料品あるいは現金のドネーションを取って参加する。集められた食料品と寄付金は、ニューヨーク市の500のコミュニティー食料プログラムに食料を提供している団体シティー・ハーベストを通して配られる。

会場は、毎回満員の盛況だ。メトロポリタンオペラやニューヨーク・フィルハーモニックに出演するアーティストの演奏を間近で満喫できる贅沢なイベントで、とても人気がある。これまでに集まった食料品や現金を食料に換算すると、その総重量は20トンを超える。

文化協会だけの力では、これほど優れた演奏会とはとても開催できないが、現地の方々や繋がることで実現でき、しかも現地の信用も得られることは、誠にありがたいことだ。

## 文化協会のピアノ

文化協会のピアノは1955年製のスタインウェイのグランドピアノBで、とても美しい音色を醸し出す。もともと片腕のピアニストとして有名なパウル・ヴィトゲンシュタイン

氏が愛用していたものだ。作曲家のラヴェルやプロコフィエフが彼のために左手だけの曲を作曲している。本人の遺志により、このピアノはアメリカレシエティツキー協会に寄付され、多くの若いピアニストのために使われることになった。しかし、レシエティツキー協会には、このピアノを設置する場所がなかった。写真2 アルバート・ロットさん



め、不思議なご縁を得て、文化協会のクラシック音楽を担当しているアルバート・ロットさんの尽力で、2003年に文化協会に常設されることになった。

このピアノはとても好評で、多くのピアニストたちに愛されている。カーネギーホールのピアノ調律師の話では、カーネギーホールのピアノと同じぐらい素晴らしい音色がすることだ。

文化協会のコンサートシリーズは1993年6月にアルバート・ロットさんがカワイのグランドピアノを提供してくれたのをきっかけに始まった。ロットさんは、もともと文化協会日本語を学ぶ生徒の一人だったが、文化協会の芸術アドバイザーを務めながら別席も運び、ようぼくとなった。文化協会をニューヨークでも人気のコンサート会場として築きあげた功労者でもある。

天才ピアニストとして名高く、彼の手から紡ぎ出されるピアノの音は、張りのある艶やかな音で、詩情あふれる音色は、聴く人の心を捕らえて放さない。ジュリアード音楽院で博士号を取得している。

## アート・アット天理シリーズ

西洋音楽と邦楽のコラボレーションを提供するアート・アット天理シリーズは、虚心庵尺八道場と共催しLMCC(ローアー・マンハッタン文化基金)の協力を得て2007年から開催されている。シリーズを担当するジェームス如楽シュレファーさん(ようぼく)は、虚心庵道場の創設者で、作曲家としても活躍し、2015年12月に音楽業界に影響を与える音楽家トップ



写真3 ジェームス如楽シュレファーさん

30に選ばれた。昨年10月25、26日には、台風19号の災害復興支援のためのチャリティーコンサートが行われ、収益金約1,100ドルが寄付された。

各方面から優秀な人材が引き寄せられて、それぞれの徳分を存分に発揮しながら、文化協会の活動を支えてくれている。また、活動を通して信仰を深めてくれる人も出てきている。これからも、神人和楽の世界をますます提供していける楽しみな場所である。